

国際交流員ダニエルの

KANGA KOURYUU

カンガ交流



有毒生物を見分けるアプリ

オーストラリアには、約170種類のヘビや約2千種類のクモなど、危険な有毒生物が数多く生息しています。そのことは広く知られていて、オーストラリアに行くことや住むことを不安に思う人も少なくないようです。

実際は有毒生物による死亡例は極めて少なく、十分に用心すれば大丈夫だといわれています。しかし、万一、ヘビやクモに噛まれたときは、その生物の種類などを病院に伝えられれば、すばやく対処できるかもしれません。ヘビやクモの種類を見分けることができると、とても助かりますよね。今回は、オーストラリアで開発中の生物識別アプリ「Crittterpedia」を紹介します。どうぞ、楽しんで読んでくださいね。

家族の悩みがアプリ開発のきっかけに

「Crittterpedia」はオーストラリアで国際結婚をしたオーストラリア人のMurry Scarce(スケース・マリー)とイギリス人のNic Scarce(スケース・ニック)のアイデアに基づく生物識別アプリです。



開発者のスケース夫婦

ニックの母親は虫に好かれる体質らしく、よくヘビやクモに襲われるようで、まるで生物のマグネットのような存在なのだそうです(笑)。ニックの母は「このヘビやクモの種類は何なのか」「毒はあるのか」と2人によく尋ねましたが、ニックとマリーが本やインターネットで探しても、襲ってきた生物を特定できませんでした。3人は「生物を簡単に見分ける方法があればなあ……」と考え、それがCrittterpedia開発のきっかけになりました。

生き物の認識に「AI(人工知能)」が活躍!

アイデアをアプリにするために、スケース夫妻はCrittterpediaを「CSIRO(オーストラリア連邦科学産業研究機構)」の「Kick-Start program(政府からの開発援助プログラム)」に登録。開発資金も国の協力を得ることができました。このアプリはユーザーが撮ったヘビやクモの写真から、その生物の科・属・種を分析して

オージー・スラング・タイム

オーストラリアのスラングを学ぼう



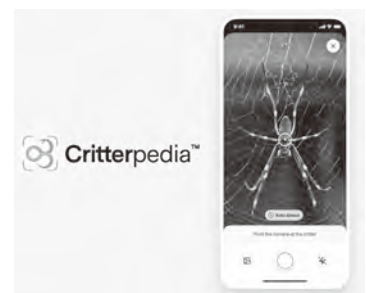
"Crittter"

読み方 「クリッター」

意味 「生き物(特に動物)」

「Crittter」とは、現実・想像の生き物全般のことを指すスラングで、オーストラリアを含む英語圏の国で使われています。このスラングは生き物を指す単語「Creature(クリーチャー)」が由来になっていて、一説によると、「クリッター」という面白い発音が人気になり、スラングとして使われるようになったと考えられています。

情報を表示します。生物を分類するためには、たくさんのヘビやクモの画像をAI(人工知能)プログラムで分析し、識別データを作成する必要があります。開発者たちは、画像データ(すでに何十万枚も登録されています)を集めて、AIの識別能力が高まることを期待しています。



▲アプリのロゴと動作画面(仮)

スケース夫妻は、生物の種類に加えて応急処置の方法、救急サービスなどの情報をアプリで伝えられるように、一生懸命開発しています。それだけでなく、生物に関する教育を推進するためにアプリから図鑑や教育サイトをチェックできるようにもしています。また、地球の生態系を保護するためには、人が生物の大切さを知ることが必要と考えていて、「このアプリで生物の大切さが伝わればうれしい」と話しているそうです。

現在、アプリの開発者たちはCrittterpediaを使うボランティアを募集していて、AIの能力を高めるためにヘビやクモのイメージデータも収集しています。これはインターネットから申し込むことができますので、興味がある人はCrittterpediaのホームページを開いてみてくださいね!

Crittterpediaのホームページ(英語版のみ) ▶

